



# KUMAMOTO GREEN

The Weekly Bulletin

# Rotary-Club



世界へのプレゼントになろう

2015-  
2016年度  
テーマ

国際ロータリー 「世界へのプレゼントになろう」

地区方針 「ロータリーの活動を通して、新たな気づきを、  
そして自己の成長へつなげよう」

熊本グリーンR.C. 「ロータリーの可能性に挑む」

R.I. 会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

R.I. 2720 地区 ガバナー 野田 三郎

熊本グリーンR.C. 会長 大友 利行

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30  
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル  
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：大友 利行 ■幹事：荒木 一之 ■会報担当：長野 義文  
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内  
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー 第2720地区 **熊本グリーンロータリークラブ週報**

【2015年11月16日】

第1196回  
2015-2016年度 第16回  
【例会】

1. 開会・点鐘 18:30
2. 食事と交歓

「手に手つないで」(ロータリーソング)

**来訪者紹介** (大友 利行 会長)

・卓話者:  
熊本第3グループガバナー補佐  
倉田 榮喜 氏

・熊本RC  
牛嶋 正弘 君、山田 哲大 君



**友情の握手**

**会長スピーチ** (大友 利行 会長)

葬式仏教は日本独特のあり方です。もともと仏教は死者儀礼に関心がありませんでした。ブッダは自分が死んだ時の葬式は、在家の信者にまかせて弟子たちは修行に励むように教えています。仏教の目標は「苦」からの開放にあり、戒律を守って煩惱と無知の克服に努めたのです。死者の世話などに係わる余地はなかったのです。

そういう仏教が死者儀礼に係わるようになったのは「孝」という価値を重んじる中国

に伝わったからです。生前に親に「孝」をつくすだけでなく、亡き親にも「孝」をつくすこととなり、この世で善い行いをして、それで以て亡き親の冥福を達成しようとして供養が盛んとなりました。

四十九日の儀式はインドのしきたりですが、百ヶ日、一周忌、三周忌は中国で成立、七日忌や十三日忌、十七日忌、二十五日忌、三十三日忌は日本で生まれました。私達が行う仏教お法事は国際的な由来があります。

一方、古代日本では死者の鎮魂慰霊の技術は未発達で、不慮の死をとげた人々、世に怨みを抱いて死んだ人々は、この世に祟る霊となると信じられて、仏教のもつ浄化の機能に注目されました。このことは、後の「葬式仏教」の基礎となる一因と考えられています。

**幹事報告** (荒木 一之 幹事)

■ 例会変更

<変更>

【熊本りんどうRC】

- ①12月3日(木)の例会は、清掃作業のため、当日13:00より(株)愛歯にて行います。
- ②12月17日(木)の例会は、家族例会の為、当日19:00より行います。場所は未定です。
- ③12月24日(木)の例会は、昼の例会のため、当日13:00より熊本空港エミナースホテルにて行います。

卓話  
予定

- 11/30 「2020 年大学入試は何が変わる」(株)なるほどゼミナール 社長 山中 孝光 氏
- 12/ 7 「マイナンバー制度について」公認会計士 立石 和裕 氏 (熊本RC)
- 12/14 「ロータリーの友について」本田 悟士 会員
- 12/21 「年忘れ家族会」(例会中に「年次総会」あり) (於：キャッスル111F)
- 12/28 例会取り止め 定款第6条第1節に基づき
- 1/6 (水) 「熊本市域17RC合同 新春合同例会」(1/4 (月)→1/6 (水)に例会変更)

【熊本グリーンR.C.ホームページアドレス】 <http://www.kg-rc.com/>

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及びません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

**【熊本西陵RC】**

12月14日(月)の例会は、クリスマス例会のため、当日18:30よりホテル日航5F「天草」にて行います。

**【熊本東RC】**

12月15日(火)の例会は、年忘れ家族会のため、当日18:00よりホテルキャッスルにて行います。

**【熊本東南RC】**

12月16日(水)の例会は、年忘れクリスマス家族会のため、当日18:30より、ホテルキャッスルにて行います。

**【熊本城東RC】**

12月21日(月)の例会は、年忘れ家族会のため、当日18:30より、ホテルキャッスルにて行います。

**出席報告**

葉 高源クラブ管理運営委員(出席担当長)

	会員総数	22名	出席率
11月16日	出席免除会員数	1名	57.14%
	計算上会員数	21名	
	出席会員数	12名	
11月2日	前回の出席会員数	12名	70.00%
	メイクアップ数	2名	
	修正出席会員数	14名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
・10/23 熊本中央RCチャリティーゴルフ 長野 君			
・11/10 熊本東RC 松村 君			

**委員会報告**

**熊本グリーンRC農園について**

報告者：河野 景治 奉仕プロジェクト委員長  
 内容：「たまねぎの植え付け」ご案内。今年度は大分時期が遅くなりましたが、たまねぎの植え付けを致します。今回は中島三千代会員のNPO法人オールサポートの方々と一緒に作業をしたいと思います。作業所の方々が30人近くいらっしゃるの時間にはそんなに掛からないと思います。子供でも植えられますので、是非ご家族で農業体験をしに来られま

せんか。

日時：平成27年11月28日(土)

午前11時～

場所：「グリーンロータリークラブ農園」

★西里小学校近く持参品：軍手、長ぐつ(運動靴でも可)、タオル、スコップ(持っている人)、水分補給の水や水筒などはご持参下さい。

**その他の報告**

**①「指名委員会」への次年度理事・役員の選出依頼**

報告者:大友 利行 会長

**「指名委員会」への次年度理事・役員の選出依頼について**

熊本グリーンロータリークラブは例年、次年度の理事・役員の選出方法はクラブ細則第3条第1節により、パスト会長、現会長、次期会長で構成する「指名委員会」で指名し、それを「年次総会」で承認する方法を採用しています。

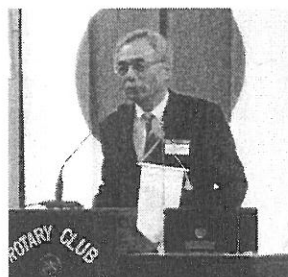
又、クラブ細則により会長は、その「指名委員会」に理事候補者の指名を「依頼」することを、「年次総会」の1ヶ月前のクラブ例会に於いて、会員の皆様に承認を求めなければならない。とあります。

つきましては、本日の例会の席上において皆様に「指名委員会」に次年度理事・役員の選出を「依頼」する事のご承認を得たいと存じます。

御承認戴ければ拍手をお願い致します。

→ (承認)

**②熊本RC次年度会長・幹事ご挨拶**



←熊本RC次期会長  
牛嶋 正弘 氏

熊本RC次期幹事→  
山田 哲大 氏



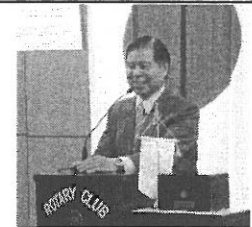
## スマイル (上田 観一会員)

- 倉田 榮喜 君(熊本北RC)  
「本日、ガバナー補佐として、卓話の時間を頂きました。どうぞよろしくお願い致します。」
- 大友 利行 君、荒木 一之 君  
「今日の倉田ガバナー補佐の卓話楽しみにしています。宜しくお願いします。熊本クラブの牛嶋次期会長、山田次期幹事ようこそお出で下さいました。今後とも宜しくお願い致します。」
- 伊津野良治 君  
「倉田先生の卓話有難うございます。この頃は「三好先生」おすすめの椅子より、立上り、坐りの「ハビリ」を応用中です。」
- 上田 観一 君  
「本日はガバナー補佐 倉田榮喜様に卓話頂き、ありがとうございます。宜しくお願い致します。又、明日のゴルフ会もお互い頑張りましょう。」
- 河野 景治 君  
「熊本RCの牛嶋様、山田様のご来訪に感謝のスマイルを申し上げます。」
- 中島三千代 君、福島 和見 君  
「グリーンロータリーに咲いた花二輪、特に今日の花言葉にぴったりの2人が久し振りに揃いました。今日の花言葉は「華美」です。」
- 河島 一夫 君、十時義七郎 君、葉 高源 君、田中 純司 君  
①「随分と秋めいて参りました。昼夜の温度差も大きくなって来ました。体に御注意して秋の夜長にスマイルします。」  
②「申し訳ありませんが早退します。倉田ガバナー補佐すみません。」(河島)

### 3. 例会プログラム

司会(紹介者):坂口 滋一会員

卓話者: 熊本第3グループガバナー補佐 倉田 榮喜 氏



#### 「互恵・親睦・奉仕」

##### 1. 経歴

本日、第2回目のガバナー補佐訪問として卓話の時間を戴きました倉田です。どうぞ宜しくお願い致します。職業分類は民事弁護士でロータリー歴は10年を超えたところです。

本日、「互恵・親睦・奉仕」という内容でお話をさせて戴きますが、10年を超えたところでの個人的な所感ということでお聞き戴ければと思います。

経歴について簡単に述べますと、昭和団塊世代(昭和24年)の天草生まれで、中学まで天草の一町田で過ごし、高校3年間は熊本工業の寮生活を送って建築科を卒業し、鹿島建設で現場監督として6年間働きました。

箱根に彫刻の森という美術館がありますがそこでの現場を最後に、創価大学に学んで弁護士となり、熊本に法律事務所を開設しましたが、20世紀最後の10年間は議員として永田町で過ごしました。

行政上、昭和団塊の世代として高齢者の括りに入り、人生として整理と仕上げの時期に入っていますが、12月12日開催の第3グループのIMで、講師をお願いしている徳野貞雄熊大名誉教授が提唱される人口減少時代におけるプレミアム世代(60歳~75歳)に属する者として、75歳位までは社会のなかでお役に立てればなと思っています。

12月12日のIMは、ロータリーの魅力と気付きをテーマとして、午前の部は永田壮一ガバナーノミニーの「私の人生とロータリー」、午後の部は徳野先生の「人生80年時代をどう生きるか」の講演です。入会歴にかかわらず多数のご参加をお願い出来ればと思います。

##### 2. 互恵と親睦

先ほど職業分類は民事弁護士と紹介させて戴きました。ロータリーへの入会は、紹介者の勧誘があったことによりですが、ロータリーに加入させて戴くことで人脈が広がり、仕事の縁が増えるかも知れないと密かに思いました。

毎週1回も集まるなど大変だと思いましたが、ロータリーは一業種に一人、毎週の例会が設けられたのも週ごとの情報交換が重要だからと知って納得しました。

その後、さらにロータリーを学ぶなかで、ロータリーは会員相互間の「互恵と親睦」を目的として設立されたことを知り、入会の動機に不純はないと安心したりしました。

この互恵（相互扶助）と親睦は、ロータリー発足の原点であり、なお、ロータリーが存在する重要な目的であり、ロータリーの魅力もこの点にあると思います。

他方で、ロータリーの組織が世界的に拡大・充実するにつれて、社会に対する奉仕が重要な項目となり、今では互恵や親睦よりも社会奉仕に重点がシフトしているように思えます。

ロータリーの世界的発展と社会情勢の変化は、ロータリーの存在意義としても社会に対する奉仕が求められるのは当然と思いますが、ロータリー章典における決議23-34の変遷について、自分なりの考えを持ちたいと思いますが、皆様がどのようにお考えになっておられるか、議論を深化させて戴ければと思っていますところ です。

### 3. 職業奉仕

ロータリーの奉仕については、百家争鳴、各人各様の多様な考え方があって、それでこそロータリーだと思えます。

ロータリーの奉仕の中で、職業奉仕はロータリーの金看板とされ、ロータリアンに高い倫理性と高潔性が求められています。

横道にそれますが、弁護士は、依頼者の利益と真実追及の間で仕事をしています。

高い論理性と高潔性を根底に置いた場合、相手に有利と思える証拠を無視するかどうか判断に迷うことがあります。依頼者のためには無視すべきですし、真実のためには無視すべきではないし、という問題ですが、少なくとも誠実に対応してごまかしや虚偽がないようにと考えていますが、ロータリーでも求められる高潔性と倫理性は弁護士業でも基本です。

職業奉仕について、「深川潤一氏パストガバナー記念講演—職業奉仕の原理と実践」で、深川パストガバナーは、①1業種1会員制の原則、②規則的例会出席の原則と共に③情報と発想の交換機能も、ロータリーが持つ本質的機能と言われていたと思います。

三人寄れば文殊の智恵と言いますが、発想と情報の交換機能もロータリーが持つ本質的な機能であるとするれば、ロータリーが世界的に発展してきた原点ともいべき「互恵（相互扶助）」も、さらに深く意識して活動すべきではないか、と思っています。各クラブは、互恵と親睦というロータリーの原点を確認し、ロータリアンが高い倫理性と高潔性を持ちながら、発想と情報の交換機能等によって、ロータリアンの職業がさらに発展充実していくことこそ、ロータリーだと思えるのです。

### 4. 社会奉仕と推譲道

さて、社会に対する奉仕です。組織は、組織に所属する個々の構成員より、組織自体の存在意義に重きをなしていくのが普通のようなようです。

ロータリーの組織も例外とはいえず、この点から考えると、国際RCが社会に対する奉仕を重視するのは、奉仕の社会的価値と共にRCの存在意義を高からしめる為と考えられます。

ロータリーの組織は、個人主体なのか組織主体なのか、ロータリアンが職業奉仕によって社会に貢献しながら、そのうえで、職業奉仕によって得られた利益をどう使うかという点から考えました。

私達の世代では、小学校の校庭には薪を背負いながら本を読んでいる二宮金次郎の銅像が必ずと言っていいほどありました。

私は、二宮尊徳翁の「一日一言」を毎日読むことにしていますが、尊徳翁は収入の4分の1は自分で使うのではなく、他に譲らなければならないと説かれ、このことを、翁は「推譲」という言葉で示されています。子子孫孫に繁栄を持続させるためにも、譲らなければならないと説かれているのです。「積善の家に余殃あり」と言われますが、「財源」だけではなく、「時間・空間・人間（ジンカン）」の「三間（サンカン）」においても、「譲ること」ことは人生を生き抜く「要」なのではないかとさえ思います。

尊徳翁の説かれる「推譲道」は、単なる道德律ではなく内在的に存在する使命とさえ考えられます。この視点からRCの奉仕を考えると、ロータリアンが奉仕を行うことは当然となり、ロータリアンは、RCで奉仕の機会を与えられていることとなります。

本日の卓話は、互恵と親睦というRCの発足の原点はなお重要であって、クラブの例会は情報と発想の交換という機能を持っているという話をさせて戴きました。

そして、奉仕の理想（理念）や超我の奉仕は、尊徳翁が説かれる推譲道に通じるのではないかと心に問いながら、例え職業奉仕を卒業してもプレミアム世代と言われる間は、社会奉仕の務めも果たしたいと思っていますところ です。

ご清聴を戴き大変に有難うございました。

### 4. 閉会・点鐘